

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大牧小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	国語科では文章内における漢字の活用について課題がみられることから、学習指導の場面でも実際に繰り返し書く活動を行って いくことで知識を活用する力を育成する。文章の読解と合わせて課題がみられることから、筆者が何を伝えたいのか主語と述語 の文章の組み立ても意識して理解できる力を育成する。 算数科では、計算方法などの基本的な学力が身に付いていることが分かるが、資料の読み取りについては課題がみられている。 学習場面では、どのように資料を読み取るのかなど、読み取る力を育成する。
実施する学力向上策 【時期・頻度】	年間を通して国語メカネ(国語の見方・考え方)を活用して「文章を読み取る力」、「資料を読み取る力」を意識した指導を行い、タ ブレットを活用した「文の構造」の視覚化を行い、主語と述語の関係性を捉えるのが苦手な児童には、タブレット上で文章の主語を 赤、述語を青でマーカーを引くなど、構造を視覚的に整理する個別学習を取り入れていく。 宿題的な学習として、「筆者の意図」を多角的に読み解く文章を読んだ後、正解を一つに絞るのではなく、「自分はこう読み取っ た!」「なぜならこの一文があるから」といった根拠をもとに、グループで意見を交わす場を設けていき、他者の多様な視点に触れ ることで、文章を俯瞰して深く読み取る力をつけていく。

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	算数では、計算処理の正確さや既習の公式・用語の適用など、定型的な問題における処理力は十分に定着している。思考・判断・ 表現については、複数の条件の整理、数量関係の根拠付け、図形の性質を用いた説明、データの傾向を踏まえた判断など、活用 や記述を伴う設問で無解答や誤答が目立っていた。 国語では、基礎的な言語知識の定着が図れている。本文から条件に合う要素を抽出してまとめる「引用記述」が高いポイントを 示している。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	基本的な問題解決には意欲的に取り組む一方、「数学的な見方・考え方」を働かせて発展的に考察したり、生活や他教科と結び 付けて捉えたりするところに課題が見られる。 構造的な情報整理と選択、複数の情報を比較・整理して最適な選択肢を見極める力の向上が課題として見られる。図表や動画 などの複合資料を比較・評価する活動を取り入れ、選択肢の根拠を文章と照らし合わせて精査する習慣をつけることで、強みで ある記述力と知識をさらに伸ばせるようになると考えられる。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	

③	調査結果分析		中間評価
学力向上策の実施状況	評価(※)	学力向上策については、国語メカネを授業の中で活用し、文の構造を視覚化していくことで読み取る力をつけていくよう、継続的に指導していく。	
	B		
↓			
学力向上策の見直し	変更なし。		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所